

## 京都新聞杯

<AI注目馬>

2, 3, 7, 11

<最終見解>

先週の天皇賞春は追走力問われず、  
スタミナ豊富な血統馬が  
上位を独占。

本命はマイネルラウレア。

父はゴールドシップ。  
兄も 2500m 重賞を複数回連対。距離延長歓迎。

追走スピードが問われないレースならば、  
結果的にメンバー中上位の脚を使える馬。

そのような適性が問われるレースではすでに格上の存在。

叩いて間隔を詰めるレースも得意な血統。